

## 市民が望む夢洲 環境アセスメント

写真の冊子が「10・22 市民集会」で配布された。分かりやすく編集されているが、私もバージョンアップに参加したいので、すこしだけ紹介する。

冒頭から一環境アセスメント法（環境影響評価法）は、「重大な環境影響を未然に防止し、持続可能な社会を構築していくためとても重要である」という考えのもと作られました。持続可能な開発のための SDGs と地続きであり、まさに大阪・関西万博の目的とも共通します。

市民の関与が強ければ、事業者による説明責任に影響を与え、対策を促すことも可能です、しかし、市民のアプローチがなければ、粛々と進んでしまうことから、「参加型アセス」が求められています。また、自然環境や、騒音・地盤沈下・土壌汚染など生活環境は、環境アセスメントの対象になるものの、防災などの観点が抜けており、十分ではありません。このままでは、愛知万博やミラノ万博で行われた環境アセスメントより、後退することは明らかです。しかしそれは、市民の関与の差ともいえるかもしれません。

（このあと、夢洲のここが心配！ 市民の求める環境アセスメント、なぜ夢洲なのか？ 夢洲は負の遺産か？ 夢洲で実際にあった災害を振り返ってみよう、環境アセスメントで意見を言おう、とビジュアルに綴られている）

最後から一大阪・関西万博は、「SDGs 達成に向けた万博」と世界に約束したことが評価され、誘致に成功したと言われます。しかし、SDGs のパビリオンがあれば、SDGs 達成に貢献したと言えるのでしょうか。

「カジノと万博は別プロジェクト」と BIE（博覧会国際事務局）への立候補申請書に、わざわざ書いているのに、「カジノと万博はセット」と大阪府知事・市長は正反対の説明をしています。現在の状況を客観的にみると、実質的に「万博を隠れ蓑に IR・カジノ誘致のためのインフラ整備を進めている」と言われても仕方がない状況です。しかし、国際的にそのように知られても大丈夫なのでしょうか。

2016 年制定された SDGs より前に実施されたミラノ万博(2015 年)は、環境アセスメントを活用し「SDGs の視点を持った」万博となりました。ミラノ万博では「事業の与える環境影響・社会影響・経済影響をいかにコントロールしモニタリングするか」等、計画の最初から解体後まで、エリアを広く取り、持続可能性を考えた万博となりました。このまま行けば、SDGs 前のミラノ万博より後退するであろう大阪・関西万博が、「SDGs 達成」を目的とした万博と胸を張れるのでしょうか。

「カジノ万博」ではなく、世界に恥ずかしくない「SDGs 万博」にするためにも、SDGs の視点を計画段階から終了後までを見据え、進めることが不可欠です。

(2019年10月26日)

